

令和4年度 美術館自主事業(企画展)実績一覧

No.	事業名	会期・会場	内容	鑑賞者数
1	庵野秀明展	2022年2月14日(月) ～4月3日(日) 展示室A	総監督を務めた最新作『シン・エヴァンゲリオン劇場版』が、興行収入100億円を突破し、制作中の新作映画の公開も待ち遠しい庵野秀明。本展は、アニメーター時代に参加した過去作品や、監督、プロデューサーとして活躍する最新の仕事までを網羅し、創作活動の秘密に迫る。アマチュア時代から最新作まで、膨大な資料を大公開した。 (展示点数 約1,500点)	31,759人
2	コシノジュンコ「原点から現点」	2022年4月15日(金) ～5月29日(日) 展示室A	コシノジュンコの創造の原点でもある大阪・岸和田の高校時代に描いたデッサンや装苑賞の受賞作から、60年代のブティックの風景、70年に大阪で開催された万博のユニフォーム、「対極」というコシノジュンコがファッションを通じて創出した世界観や大分・久住を本拠地に国内外で活躍するDRUM TAOとの仕事など、現在までの活動の全貌を紹介。会期中には、コシノジュンコと企画する様々な関連イベントを開催。常にモードの先端を走り、新たな創造を繰り広げる、その活動の全貌をご覧いただいた。 (展示点数 231点)	16,230人
3	国立国際美術館コレクション 現代アートの100年 ハロー、アート！世界に夢中になる方法	2022年6月11日(土) ～8月21日(日) 展示室A	国立国際美術館は、1977年より、国内外の優れた現代美術を発信する美術館として、収集・保管・展示活動を行ってきた。本展は、その名品・優品を国内各地において紹介する巡回展として、広島に続き、大分で開催。ポール・セザンヌに始まり、ヴァシリー・カンディンスキーやマルセル・デュシャンらによる抽象絵画や概念芸術の動き、第二次世界大戦後に登場するポップアートや新しい表現様式、さらには多様化する2000年以降のアートまで、大きく変容する100年余りの美術の流れを4つの章で迎えるもの。独創的な作品の数々は、それぞれの時代における最新の「現代アート」。展示室では時代や地域を越えて、ひとつひとつの個性が私たちの感性を刺激する。 (展示点数 72点)	12,388人
4	大本山 相国寺と金閣・銀閣の名宝	2022年11月26日(土) ～2023年1月22日(日) 展示室B・コレクション展示室	京都の名刹・相国寺は、1382(永徳2)年に夢窓疎石を開山として、室町幕府3代将軍の足利義満が創建した寺院。金閣(鹿苑寺)、銀閣(慈照寺)、大光明寺は、相国寺の塔頭寺院として知られている。大本山相国寺をはじめとしたこれらの寺院は、日本文化を代表する貴重な文化財を数多く守り伝えてきた。本展覧会では、禅画や墨蹟、唐物や茶道具などの美術工芸品の他、雪舟、千利休、長谷川等伯、狩野探幽、伊藤若冲、円山応挙、本阿弥光悦、野々村仁清、尾形乾山ら、室町から江戸期の巨匠や、さらには大分県日田市出身の日本画家・岩澤重夫の金閣寺客殿障壁画まで、選りすぐりの寺宝を紹介。日本文化が誇る「美」の世界を存分にご堪能いただいた。 (展示点数 73点)	16,770人
5	ポケモン化石博物館	2022年12月10日(土) ～2023年1月24日(火) 展示室A	人気ゲーム『ポケットモンスター』シリーズに登場するふしぎな生き物「ポケモン」にはカセキから復元されるポケモン(以下「カセキポケモン」と呼ぶ)がいくつか知られている。この展示は、「カセキポケモン」と私たちの世界で見つかる「化石・古生物」を見比べて、似ているところや異なっているところを発見し、古生物学について楽しく学んでいただくもの。ポケモンの世界の「カセキ博士」とお手伝いの「発掘ピカチュウ」、私たちの世界の博士たちの案内で展示をめぐり、それぞれの世界の「かせき」をじっくり見比べることができる企画。 (展示点数 76点)	49,660人
6	イメージの力 河北秀也のiichiko design	2023年2月11日(土) ～3月29日(水) 展示室A	大分県宇佐市の酒造メーカー、三和酒類株式会社が販売するロングセラー商品「いいちこ」。心地よい風景の中に佇むボトルのポスターをはじめ、雑誌広告やCMなど、そのプロモーションをすべて手がけてきたのがアートディレクターの河北秀也である。1979年に発売されてから、九州で少しずつ売上を伸ばしていた「いいちこ」は、河北が作り上げたイメージの力も手伝って、一気に全国に名を馳せるブランドになった。本展覧会は、一貫した世界観でデザインの本質を提示してきたiichiko designの全貌を紹介するとともに、河北秀也のデザイン思考についても掘り下げた。 (展示点数 146点)	9,216人